



弘報かねやまをご覧いただきありがとうございます

# おかげさまで創刊700号を迎えました

「弘報かねやま」創刊  
 大正14（1925）年1月1日  
 に町制を施行した金山町。それから26年後の、昭和26（1951）年6月に「弘報かねやま」の歴史は始まりました。「弘報かねやま」と題した創刊号から数えて、今月号で700号。町民の皆さまのご協力のもと、この記念すべき節目を迎えることができました。本当にありがとうございます。

読んでもらえる広報紙を

「弘報かねやま」は、半世紀以上の長きにわたり、町の施策や地域の話題など町民の皆さんに知ってもらいたい情報をお届けしてきました。しかし、情報は一方的に「伝える」だけではなく、皆さんに正確に「伝わる」ことが大切です。SNSやホームページが情報収集の主流となる現代ですが、紙だからこそ伝わる迫力やあたたかさ、見やすさを強みに、子どもからお年寄りまで、町民の皆さんが必要とする情報を適時にお伝えしていきます。これからも精進していきます。

## 「弘報かねやま」創刊号 気になる記事は？

創刊号の発刊に際し、当時の岸伊一郎町長は、「此の度町と町民の和を結ぶ一つの機関として「弘報かねやま」を発行することになりましたがこの弘報は歩み続けんとする町の情勢を皆様に正しく報導すると共に各位の心からなる協力とお気付の点とを強く反映させより明るい町を造るための機関であります」と寄せています。

記事は、森合峠の改修状況、昭和25年度の徴税状況、昭和26年度歳入歳出予算、青年会だより、婦人会のあゆみなど、幅広く掲載され、町の新聞としての役割も大きかったようです。





▼平成14年6月、天皇皇后両陛下がご来町され、第53回全国植樹祭が開催。特集号として様子をお伝えしました。



▲平成26年10月、第38回全国育樹祭が遊学の森で開催され、皇太子殿下がご来町されました。



タイトルロゴも歴史とともにデザインを変えてきました。皆さんはどれがお好きですか？



「落花生の可能性」  
(令和元年11月号)

町で産地化に取り組む落花生を特集。「ピーナッツ」として商品化を果たしたものの、町内での認知度が低く、その全容を知らない方も多い。紙面では、産官学の連携、生産者の想いを熱く伝えました。

# 町民と町政の架け橋として 69年

## ～特集記事に見る町の姿～

広報紙は町民の皆さんと町政を結ぶ架け橋であるとともに、金山町の歩みを記した貴重な資料でもあります。今後も工夫を重ね、町の課題や町民の皆さんのいきいきとした活動を取り上げていきます。これからも広報かねやまをどうぞよろしくお願いいたします。



「ありがとう中田小」  
(平成26年4月号)

平成26年3月31日で閉校となった中田小を特集。1875年に開校し、閉校までの138年間の歴史と伝統を受け継ぎ、中田地域の教育・地域活動の拠点として大きな役割を果たしました。



「美しい街並み大賞を受賞」  
(平成22年8月号)

国土交通省より都市景観大賞の最高賞「美しい街並み大賞」を受賞しました。昭和59年から始まった「街並みづくり100年運動」が目指すもの、まちづくりのこだわりを原点に戻って特集しました。



「公文書公開条例を制定」  
(昭和57年3月号)

昭和57年4月1日、全国に先駆けて制定された「公文書公開条例」を特集。紙面では条例の全文を紹介。当時の岸宏一町長は、透明度の高い行政・住民自治意識を高揚させると言葉を寄せました。

### 広報かねやまを振り返る



600号

平成24年12月発行。表紙を飾ったのは今井正人さん(安沢)が手掛けるミニシクラメン。紙面では町立金山診療所の現状を特集。当時の人口：6,336人



500号

平成16年7月発行。表紙は、有屋小創立120周年記念校内相撲大会の一場面。紙面では豪雨の被害状況を伝えました。当時の人口：7,245人



400号

平成8年3月発行。谷口分校・漆野分校が廃校になり、地域の皆さんとともに涙の閉校式が行われました。当時の人口：7,780人



300号

昭和62年11月発行。街並みづくりの一環として町道の愛称を募集、公民館大会が30回を迎え特集記事を掲載。当時の人口：8,069人



200号

昭和54年4月発行。町の予算、金山小学校の建設工事終了のお知らせ、健康コラムなどを掲載。当時の人口：8,185人



100号

昭和43年10月発行。出稼ぎに行くお父さんに向けたメッセージ、交通事故防止の呼びかけなどを掲載。当時の人口：8,934人